

平成26年9月 定例委員会々議録

- 1 日 時 平成26年9月30日(火) 午後3時30分～
- 2 開催場所 会議室 301
- 3 出席委員の氏名
委員長 齋藤和夫 委員長職務代理者 黒川優子
委員 山崎克弥 委員 中野信男
委員 秦久美子 教育長 上原洋一
- 4 欠席委員の氏名 なし
- 5 説明のため出席した職員
教育次長 金子彰男 学校教育課長 山田公一
子育て支援課長 伊藤謙治 社会教育課長 堀克彦
指導主事 佐藤浩一
- 6 本委員会書記
学校教育課 猪股加代子
- 7 傍聴人
1名
- 8 会議に付議した事件
諸報告
(1) 行事報告及び行事予定
(2) 教育長報告
(3) 寄付報告
(4) 共催・後援の教育長専決報告

協議題
(1) 新規後援申請
(2) 子ども夢づくり支援事業補助金交付申請について(燕東小学校)
【ホテル復活プロジェクト】
～栗生津地域や栗生津小学校にホテルの舞を～

そ の 他

(1) 9月市議会一般質問について

会議録

別紙のとおり

1. 開 会 宣 言 午後3時30分～

2. 会議録署名委員の指名 秦 久美子 委 員

3. 諸報告

(1) 行事報告及び行事予定について

《各課長が報告》

(2) 教育長報告

〈上原洋一教育長が報告〉

● はじめに

○ 9月21日、平成26年度 Jack&Betty プロジェクト海外派遣事業親善大使報告会が行われた。12人の大使はオーストラリアのブリスベンでの充実した活動による成果や、英語の力を一層伸ばすことや将来燕に貢献したいことなど今後の目標を来場者に発表した。

● 9月定例市議会報告（9月4日～8日）

○ 一般質問16人中8人から教育委員会所管事項に25本の質問があった。主なものは、別紙のとおりである。

○ 旧吉田庁舎に建設中の子育て支援センターの概要について。子育ての相談支援、情報交換・交流の場として、また、子育て支援団体やボランティアの活動、育成を図る他、ファミリーサポートセンターも併設し保護者を支援する。

○ 道徳教育における学校と家庭の連携について。学校における道徳教育を実効あるものにするためには、家庭との連携が不可欠であり、学校は、家庭、地域社会との交流を密にし、協力体制を整えるとともに、具体的な連携の在り方について工夫が求められている。市内の小中学校では、参観日等で道徳の授業を公開し、その後の懇談会で子どもたちの様子について話し合うなど、保護者と連携を図りながら道徳教育に取り組んでいる。教育委員会では、これらの取組をさらに推進するため、文部科学省が新たに作成した道徳教育用教材「私たちの道徳」の使用を市内の小中学校に呼びかけている。この教材は、授業以外に家庭や地域においても積極的に活用することとされており、今後も、学校、家庭ぐるみで子どもたちの豊かな心をはぐくんでまいりたい。

○ 公民館の設置及び運営に関する基準について。燕市内の公民館は平成15年に見直された現基準に適合している。

- 燕市・弥彦村児童生徒科学作品展（9月13,14日 於：産業会館）
 - 青少年のための科学の祭典2014燕弥彦大会も同一会場にて開催された。夏休みの自由研究等の展示が充実していたこと、実験、体験コーナーのブースが増え参加型体験型のイベントとしても成功した。来場者数は2,676人（H25：2,365、H24：2,137）と昨年より300人以上増えた。また、科学の祭典の体験ブースへの参加を延べでカウントしたところ、4,414人（H25：3,621、H24：1,608）と800人近く増加した。

- 小中学校PTAと教育委員会との交流会（燕地区：9月19日、分水地区：9月25日、）
 - 今年も3か所で、20数人～50人規模で実施中。吉田地区：10月3日予定
 - 教育委員会からは、全国学力・学習状況調査の燕市全体の結果について説明した。
 - 保護者からは「夏場の教室環境」「土曜授業」「体罰」「燕市の教育の今後」「いじめ対応」「通学路の安全確保」等について質問意見が出ている。

- 燕市幼稚園・こども園合同発表会（9月20日 於：文化会館大ホール）
 - 今年で9回目の合同発表会が行われた。園ごとに工夫をこらしたリズム表現と鼓隊演奏で詰めかけた家族から大きな拍手があった。

(3) 寄附報告

《山田学校教育課長が1件の寄附について報告》

(4) 共催・後援の教育長専決報告

《山田学校教育課長が1件の継続共催申請、8件の継続後援申請について報告》

4. 協議題

(1) 子ども夢づくり支援事業補助金交付申請について（燕東小学校）

【赤門祭パワーアッププラン】

～わくわく ドキドキ 体験教室～

○委員（黒川 優子）

以前にも、子ども夢づくり支援事業の補助金を学校の事業補助として使われたり、学校行事の不足分として使うのは、子ども夢づくり支援事業の趣旨を考えると違うのではないかと思われると発言した。もう一度、補助金の趣旨を考え直す必要があるように思われる。子どもの夢を大事にしていきたい。

○委員（秦 久美子）

23年度学校支援地域本部事業の一環として、始まった事業とのことであるが、学校支援地域本部事業の予算の枠と夢づくり支援事業の予算の枠を一緒として、錯覚されているように思われる。夢づくり支援事業補助金は、子どもたちの新しい何かにチャレンジしたいこと、ものづくりに使っていただきたい。学校事業の不足分に使うのは、趣旨が違うのではないかと思う。最初に学校支援地域本部事業でのスタートの事業なので、申請すれば補助金がもらえると思っているのではないかと考えられる。

○委員長（齋藤 和夫）

二人の委員からは夢づくり基金の設立した時の趣旨から、補助金の使い方が少しずつ来てきたのではないかとの指摘と思われる。金の出どころがないから補助金の申請をする安易な発想が見えるような感じを受ける。子どもたちの自発的な発想を大切にしたい事業を引き出していただきたいと考える。

○委員（山崎 克弥）

確かに、そのように見受けられる。学校で、申請をしなければいけないとの義務感から申請されているようである。基本に立ち戻っていただきたい。今回の企画については、子どもたちの希望を聞いて進んでいる事業であり、差し戻しは難しいと思われる。この企画については承認したいと考えるが、今後の事業については、学校の予算の一部でなく、子ども夢づくりについて考えて使っていただきたい。

○委員（中野 信男）

夢づくり支援事業の原点の趣旨についてお尋ねしたい。趣旨に基づいた事業について補助金の交付を決定すべきと考える。

○学校教育課長（山田 公一）

基本的には、子どもたちが中心になって、自分たちがこんなことをやりたい、こんなことがあったらいいねと思われる事業を実施するための補助金である。

事業の企画、運営についても子どもたちが主体的に関わる事業について、補助しようとするもので、子どもたちが夢を実現させるための補助金としてスタートしたものである。学校行事と重なるところがあるように思われる。

○委員（中野 信男）

今回の企画については、差し戻すまでもないが、各学校に補助金の趣旨につ

いて、もう一度指導をお願いしたい。

○委員長（齋藤 和夫）

各委員が感じていることは、補助金交付の原点であると思われる。学校の忙しさに紛れて、機械的に処理されているところがあるように感じられる。事務局から、学校長にもう一度趣旨について説明をしていただき、趣旨を活かされるような活用をしていただきたい。今回は、行事の予定も進んでいると思われる。この事業については、承認ということではいかがでしょうか。

審議の結果、全員異議なく承認された。

5. 議 案

議題第47号 燕市教職員住宅管理規程の一部改正について

《山田学校教育課長が説明》

審議の結果、全員異議なく承認された。

議案第48号 燕市 ICT 教育推進協議会設置要綱の制定について

《山田学校教育課長が説明》

○委員（中野 信男）

要綱に設置目的が定義されているが、各学校が使用できるような環境を整えるための要綱と考えていいのか。

○学校教育課長（山田 公一）

そのとおりである。

審議の結果、全員異議なく承認された。

5. そ の 他

(1) 9月議会一般質問について

《伊藤子育て支援課長、山田学校教育課長が報告》

○委員（山崎 克弥）

質問の中で藤の曲保育園が公民館と合築されているとのことであるが、今後、

総合的に検討する必要があると考えているとの答弁であるが、子どもと高齢者が集まる施設は非常に良い場所と思われる。実際の運用はどのような方法なのか。

学校のトイレの設置状況において、障害者用トイレが設置されていない学校があるが、災害がおきて避難所になった場合、学校に設置されていないときは、近くに障害者が使用できるトイレがあるのか教えていただきたい。

○教育次長（金子 彰男）

藤の曲公民館については、1階が保育園、2階が公民館となっており、公民館を利用する高齢者が階段を使用しなければならないため、改善方法がないかとの質問であったが、実際に利用されている方々からの苦情が分からない状態であり、階段の利用が難しいために公民館を利用できない状況があるのか判断できなかった。

総合的に検討とは、幼稚園・保育園の適正配置についての検討を含めて検討が必要との答弁となった。

障害者用トイレの必要性を感じたのは、東日本大震災の受け入れ時であった。

しかし、学校に障害者用トイレを設置するには、給排水等の問題、既存のトイレを変更するには、トイレの数を減らさなければならず、トイレだけの工事は難しい状況にある。学校の大規模改修等に併せて変更していきたいと考えている。

○委員（山崎 克弥）

近くに、障害者を受け入れる施設はあるのか。

○教育次長（金子 彰男）

災害の状況にもよるが、難しい。緊急の場合は、簡易トイレ、イベント用のトイレを考えているが、長期避難には、必ず必要になっていくと思われるので、防災課で検討している。

○委員長（齋藤 和夫）

各自治体も国の基準を超えた、施策が必要になってきていると思われる。

7. 閉 会 午後4時00分

委員長 齋藤和夫

会議録署名委員

会議録調整者
